

しさを増すきっかけが出来るのではないかと
思っている。

(4) その他父親の協力、母親の態度を改め
させるなど大きな問題が次々に出てくる。

四、入園後一と月を過ごして

麻疹による欠席中の連絡は、恵子と私の
結びつきを強くした。また鯉のぼりを作っ
て送ったことで一層、その態度を柔らかく
変えた。その後、五、六人のグループによ
る指導の機会が与えられて、こわばった顔
もほぐれ始めた。それと同時に、いつまで
も私の気を引いておこうとする粘液質な態
度が出てきた。

大勢の注目をあびて行動することは出来
ないがひとりだけ、特別に扱ってもらいた
い状態である。今まではおとなたちが勝手
に、偏った愛情で恵子を奪い合った。それ
で当惑した恵子は、おとなの言いなりに従
い、二、三週間は祖母に頼り、家に帰っては
母親の愛情ある厳しいしつけに従わねばな
らなかった。祖母の許した行為も母の元で
は許されない。やっと母親のしつけをのみ

込んで母親に頼ると、母親の注意をひく妹
が気になり始める。その中に祖母が迎えに
来てまた生活が変わる。初めのうち、私に対
したうるさそうな顔もおとなに対する反撥
であったようだ。少しずつその状態がほぐ
れてきたことをうれしく思っている。

私を必要とし始めた事は、初めの解決の
糸口がついてきた事を認めさせてくれた。

第一、第二の段階と次々に問題が処理され

友だちと遊ぶ機会をもたなかった子ども

武 南 礼 子

K君は、昨年の四月に二年保育として入

園した。家族はK君のお姉さんが小学校五
年であるとお父さん、お母さん、そしてK
君の隣りにK君のお母さんの実家がある。

四月に入園した当時、心細げに涙ぐんだ
りしていたが他にも同じ状態の子どもはい
たし、またその他の面でも、まだ他の子ど
もが同じ状態であったから、K君の変わっ

ていくに従い、最も大事な交友関係も起っ
てくるだろう。祖母には偏愛され、母親には
嘘を時々つく子どもと思われ、父親は無関
心という間に育ってきた恵子が、どこまで
友だちと和して行くことが出来るだろう
か。

恵子が独りで進んで行ける最大限度の人
間関係の道すじまで、導いてやりたいもの
だと思っている。(八幡・大蔵幼稚園)

た面を見つげ出さずにいた。

五月に入り、K君だけがまだ遊べない、そ
してリズムの方にも参加しないし、返事も
出来ない。声を出して私に話しかけること
もせず、質問しても「うん」とか「違う」と
か首でするのみだったので、これはすこし
特別に気をつけなくては、と感じ始めた。
お母様に伺うと、近所に遊び友だちがいな

く、いつも家の庭でひとりで遊んでいるということであった。そのうちに幼稚園ではおべんとうが始まった。K君は一応食へるが食べ方がおそく、また残すことが多い。

この頃から半泣きで登園する日が多くなってきた。ここで気をつけなくてはと、まずK君を喜んで登園させることから始めた。ぼつんと、ひとりで立っているK君の手を引いて遊びに入れようとしてもなかなか応じない。そこでK君の家に比較的近所のH君と友だちになれるように席も隣りにし、帰りも一しょにした。これがよかつたとみえ、このH君のことを、K君は家へ帰って報告するし、お互いに帰りがけに「遊びに来て」と誘うようになった。それからまた、元気で園に来た日には、大いにほめてあげたり、帰りがけに御ほうびとして折り紙などを与えてみた。このようなことから、だんだん元気で登園するようになってまずほつとした。しかし、その他の事は以前と同じである。こんな状態からまた前進させようと、いろいろこちらから誘っ

た。しかし誘いにもなかなか応じない。そしてこのK君にはこちらが強くては、余計に引っこんでしまうということも解った。ところがK君の母親は、園でのK君の状態を知って驚き、家では決してこんなではないと意外な面持であった。それからというものは、お会いするたびにどうか、どうか、どうですかの連はつ、K君にも家でもいろいろ言っている様子であった。

そこで私は、母親にきいてみた。「お父様か、どなたかに、K君にた性格がおありではないのですか」と。すると父親が非常に用心深いのですと、いろいろの例を示して下さったのをきき、なるほどK君の引っ込みじあんも、多分父親の性格が含まれていると思った。母親はだいがあせり出した。あせることは結局だめにするこゝなので「K君に対して、お父様とお母様が余りやいのやいのと言っては困る」と、何度も注意をしておいた。

ところが何んとかして遊んでくれるようにと心がけたかいがあって、七月に入った

ある日「外へ出てみない」とうながしたところ、ひとりで進んで庭へ出て遊び出した。ジャンブルジムに乗ったり、すべり台に乗ったり、そこで私は比較のおとなしいA君とB君に、「Kちゃんのとこへ行って一しょに遊んであげて」と言ったら二人ともすぐとんでいった。そつと見ていると、三人は自然に仲間になり遊び出した。子ども同志は案外素直に遊べるものだとうれしい気持だった。

遊ぶことはやつときっかけが出来た。今度はリズムなどへの参加と、口をきくことの指導である。しかし残念には、ここで夏休みを迎えた。母親というものは、リズムなどへの参加を第一に思うらしい。しかし遊べるようになったことは、大出来だと話したことである。

二学期に入り、一学期に比べてずっとこやかになって登園しだした。最初は、いっくらか逆戻りをして遊ばなかったが、間もなくして、一学期の後半の姿をとり戻した。皆が立って歌う時、せめて立つだけで

も皆と一しょに立てれば、またきっかけも出てくると思ひある日「皆立つてごらんなさい。お背中のお骨がまがっていかないかしら？、先生に見せてね」と言いながら子どもたちの背をひとりずつ見てあるきK君のところへ来て何気なく「Kちゃんのはどうか」と背をさするようにして立たせてみた。すると立つことは立つようになり出した。

この頃K君と絵本を見ていて、私が「これ何かしら」と質問すると声にならない無声音で説明してくれました。それから数日すると、帰りのごあいさつの歌の時、頭をちょこんと下げるようになった。その翌日は、自由画の説明を始めて例の声にならない声でしてくれた。こうして一日一日と伸びてくるK君を見て、うれしくてならなかつた。母親にも連絡し、じっくりすること、K君に余りいろいろ言わずにいてほしいと頼んだ。

運動会には、はしるりレーなどには参加した。しかし、ゆうぎ、体操は全然しない。そこで「すずめ」のゆうぎの時、K君に

かかしになつてもらい私と一しょに作つた、みの傘をつけて中に立たせた。てれてもやつてのけた。その頃ようやく共同製作に参加しました。

もうあとひと押しのところ、二学期が終り、三学期に入った。

三学期に入ると二学期の時の態度から全然後退せずほつとした。その頃のある日こんなことがあった。その日、非常にうれし気に入つて来たK君は、例の声で「箱根へ昨日行つたんだよ」と話しかけ、車窓から見えた外の様子から、小石のことまで、こっと細く話してくれた。さらに「絵に描いて下さる？」と言うとすぐ応じて、紙にも黒板にも描きまくつた。また年長組の先生にもその話をしたほどであった。ほんのちょっとしたこと、こんなにも喜び、そのことによつて今までよりずっと親近感を示し進んで話しかけてくれたことは、きっかけがいかに大事なことか、ということを感じさせた。この事は家にも連絡したが、家の方でも喜び、これからもせいぜい機会を見

幼稚園は、子どもが家庭からはなれて社会生活をするはじめての場であり、また教育専門家の手にゆだねられる第一の機会なので、今まで気づかれずすぎてきたいろいろな問題が発見されることが多いようです。そしてまた、幼稚園での指導目標は、学習ということに集中せず、むしろ生活全般にむけられているために、幼稚園期は生活の問題を十分に指導出来る良い時期でもあるでしょう。

今、恵子ちゃんとK君の指導の記録を拝見して、こんな時期に熱心に導かれる機会を得た子どもの幸福をみて、忍耐強く努力を惜しまれぬ先生の指導に心を打たれました。

誰でも、どんな親でも、子どもが良くなるようにと心を悩まさない人はいないにちがひありません。それなのに、実際にはむずかしい問題が次から次へと起つてきたり、努力すればする程ますますむずかしくなつてしまつたり、思いがけなかつたところに問題が育つていたりすることがあるのです。

恵子ちゃんの場合も、K君の場合も例外ではないようです。恵子ちゃんのお母さんもお祖母さんもお一生懸命に恵子ちゃんに良いようにと願つていたようです。し、K君のお母さんも、思いがけぬK君のひっこみ思案にあせつてしまうほど一生懸命でした。それでも問題はますます

つけて出かけましょうと言っていた。その日、始めてリズムに参加したのである。

その日遊ぎ室で、皆とゲーム遊びをする、K君は参加した。これは良い機会と思いい、そのままピアノを弾き、あるいたり、はっきりなどの基本リズムをすると、そのままゲームの延長のように、にこにこして参加している。動作は不明瞭で、リズムに合っていないが、一応やっている姿を見てもう大丈夫と、何かしら重荷が下りたようであった。

これで、年長組になれば、ぐーっと大きく成長するだろう、と思つた。この四月から年長組になったK君は、四月の半ば頃「へびがいたよ」と、登園してすぐ大きい声で報告してくれた。K君の本当の声を初めてきいたのである。男らしいかわいらしい声であった。それから大きい声で話し、また遊びもする。リズムやうたも、初めはてれくさそうであったが、じき元気になるようになった。年長組になりたてでまだ返事が出来ず(素直に出てこないで)、劣

等感をいだいてはいけなないと、ひかえていた出席簿を、「大きい声でお返事してね。きこえないとお休みになってしまうから」と、何気なく言い、読み上げたところ、K君は大きい声で返事をした。

ずい分長いことかかったが、やっぱりあせらずにやったことがよかつたと思う。また母親も今ではすっかり喜んで、私共と協力して下さっている。そしてしみじみ子どもの教育のむずかしさというものが、わかつたと言っていた。

結論として考えられることは、K君には、もつて生まれた性格がずい分じやまをしていたようだが、あせらずに、きつかけを見出していったことが、K君の爲になつた様である。

しかし私も、ついあせりたくなって、もつと早くよくなる点を、かえておくらせました。深い反省となつてゐる。

(小金井教会幼稚園)

むずかしくなつていったようです。ここに先生の助言と指導が、第三者として客観的に、そして愛情をもつて忍耐強く引き込まれて、二人の子どもも自分ごとと直せました。子どもだけではなく一家ぐるみと言えるでしょう。

私は相談室で、相談に来るお母さんの話を聞いたり、問題をもつと言われる子どもとの相手をしたりする機会をもつていますが、この一家ぐるみというところも感じるのです。子どもに良かれと思つても、どうしても家庭の協力が必要なのですが、両親は大抵の場合それが適当かどうかを別として、私たち以上に子どもに良かれと願う気持と、家庭がうまくいくようにと配慮する気持が強いので、正しいと思われれることを一生懸命に説明しなにかぎり、実行してはもらえません。こちらの協力する気持が通じて、親自身も新しい気持で、新しい方向に向かいはじめるまでがたいへんな仕事です。宮崎先生も武南先生も、そんなところに御苦労生あとがうかがわれるように思いました。子どもが浮かび上つてきています。大勢の一段が浮かび上つてきています。大勢の子どものたくさんさんの問題を背負いながら、一つ一つの問題を地道に処理してゆかれる先生がたの御健闘を心から願わずにはいられません。

(荒尾良子)